

三愛 ビュー view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



「障害者の就労支援と就労移行支援事業みなみの取り組みについて」

多機能型事業所 ワークサポートセンター三愛
 就労移行支援事業みなみ 課長 高田 裕子

就労移行支援事業みなみは、平成26年4月に多機能型事業所ワークサポートセンター三愛と併せて開設しました。現在定員10名のところ6名の利用者が、就職を目指して訓練に取り組んでいます。開所してまだ2年経過していませんが既に5名の方が就職し継続して働いています。職場実習から就職後もスタッフが職場訪問し、関係機関と連携して支援を行います。

当法人での就労支援の取り組みについては、平成20年から障害者就業・生活支援センターくばらを開所し、企業で働くことを希望する障害のある方の相談援助を行い、就職活動と職場定着の支援を行ってきました。これまで障害のある方の就労支援に携わってきて、近年は企業から「障害者雇用を検討したい」との相談が増えてきているのを実感します。一方、就職までの準備を必要とする就労希望の方も多数いるのが現状であり、更に職業準備支援の必要性を感じています。

みなみでは、企業で就職し継続することを目指します。最初に、ご本人の希望や適性を考慮し、訓練内容を計画します。まずは作業や座学を通して就職するための基礎的な労働習慣をつけます。内容としては、SST（社会技能訓練）などで、座学やグループワークは毎週テーマを決めて行います。外部講師による講習、企業見学、マナー講習、パソコン、契約企業での作業等、希望や課題をふまえて実践します。その後、職場体験としての実習を行い、求職条件の整理、ナビゲーションブックの作成、履歴書作成、模擬面接やハローワークの相談という流れで就職へと向かいます。様々な経験を通して、自己理解を深めるとともに苦手と感じる課題にも取り組み、得意なことを伸ばせられるよう個別相談を随時行っています。

就職するためには、健康管理と生活習慣の確立、余暇の過ごし方なども大切です。また、就職して継続するためには自分に合った仕事や働き方を知り、職場での困りごとを解決するための力や相談出来る人を持つことも必要となります。そのためには、ご本人・ご家族・関係機関の方向性の一致が求められます。また、就職活動はハローワーク、香川障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターくばらと連携して行います。くばらのスタッフはみなみでの訓練状況を定期的に見て相談対応し、就職後の支援に速やかに繋がられています。就職した方々は、高齢者施設や病院、クリーニング工場やパンの製造等それぞれの分野の職場で、自分の役割を持ち活躍しています。

みなみでは、これまで様々な理由で離職してきた方々に、ビジネスマナーや会社での立ち振る舞い、敬語の使い方等の講習から始めています。座学では、「職場のルール」「得意不得意を知る」等、働くために必要となるそれぞれの課題を整理し、自身のストレス対処法やコミュニケーションスキルの向上にも取り組みます。社会経験や年齢、障害種別も違いますが、協力しながらご自身の希望する就労生活に近づけられることを目指します。

就労支援は生活支援と同様に長期的な支援と心理的サポートが求められます。今後も個別相談をより充実させて地域の企業や関係機関の方々と連携し取り組みたいと考えています。

●●●冬に流行する感染症対策●●●

三船病院 非常勤内科医 高橋 章

冬に流行する感染症では、インフルエンザと感染性胃腸炎が重要であるといわれています。

インフルエンザは、38度以上の高い熱や頭痛、手足の関節が痛くなるのが特徴で、のどの痛みや鼻汁などの症状も出ます。香川県で流行する時期は例年12月から翌年の3月末ごろまでです。重症化や感染のリスクを抑えるために予防接種が推奨されていますが、完全に感染を防ぐものではありません。このため感染予防が重要といわれています。インフルエンザの感染経路は飛沫感染と接触感染の二つが報告されています。飛沫感染は、インフルエンザに感染しているヒトの咳などで飛散したウイルスを鼻腔や気管などの気道に吸入して感染します。予防にマスクは有効で、正しくマスクを装着するようにしましょう。接触感染は、ドアノブなど環境表面についたウイルスに接触し、鼻や口などの粘膜から感染するもので、十分な手洗い等の手指衛生が予防に役立ちます。インフルエンザにかかったかもしれない、かかったときは、無理をせず医療機関を受診しましょう。

次に感染性胃腸炎ですが、発生のピークは12月中頃といわれていますが、2月3月にも認められます。この時期に発生する感染性胃腸炎のうち多くはノロウイルスによるものと推測されます。昨年の秋ごろより、これまで検出例の少ない遺伝子型ノロウイルスによる感染事例が報告されており、流行が拡大する恐れがあるといわれています。ノロウイルスはアルコール消毒が効きにくいウイルスなので、石鹸と流水による手洗いが効果的といわれています。嘔吐物などの処理は速やかに行いましょう。また消毒は次亜塩素酸Na（ハイターなど）を使用しましょう。

その他、これらの感染予防には、食事トイレの後に手を洗い、外出先から帰った後はうがいを必ずすることなど日ごろの健康管理が大切といわれています。さらに規則正しい食生活と運動、十分な睡眠も大切です。



三船病院 委員会活動紹介

「 接遇管理委員会 」

委員長 事務長 北村 直幹

毎年5月と11月の第2水曜日に開催されている接遇管理委員会は、患者様及びご家族への接遇向上と職員間の意思疎通の改善を図り、病院の基本理念及び基本方針の達成を目指し活動しています。「接遇」という言葉を辞書などで検索すると、書き方・表し方は様々ですが、共通して業務上におけるお客様に対するサービスのことで、態度や言葉遣い、もてなし等を含む広い意味での待遇のこととあります。私たち病院の職員は日々の業務の中で患者様やそのご家族の方、面会に来られる方、また取引きに来られる方や出入りの業者の方など多くの人たちと接する機会があります。そうした人たちに対する話し方や態度、対応の仕方には職員誰もが病院の顔であることを自覚し、あたらなければなりません。電話や窓口での対応に始まり、診療行為や治療行為、病院の運営に関わる取引きに至るまで職員一人の言動がそのまま【三船病院】という看板を背負って行われているのです。「信頼」というものを築いていくには多くの時間と労力を要するものですが、それが失墜する時はまさに一瞬です。日々同じ業務の繰り返しや面倒な業務を行っている時は誰もがモチベーションは上がりませんが、そういった時にこそ集中し、ひとつひとつの業務を丁寧に行わないとふとした油断や一瞬の判断ミスがトラブルや事故に繋がってしまうのです。そうならないためにも私たちは常日頃から「接遇」という言葉を意識し業務にあたらなければなりません。またそうすることで患者様をはじめ、人に対して思いやりを持った対応ができるのです。委員会では今後も職員ひとりひとりが三船病院の顔として行動出来るよう教育やサポートをしていきたいと考えています。



介護老人保健施設 福寿荘



「地域の方々との繋がりについて」

福寿荘 支援相談員 安藤 由佳

福寿荘は地域の方々とともに繋がりのある施設であり、地域の方々の協力があってこそ、利用者の方々に適切なサービスを提供できていることも多くあります。

行事の際の移動介助や清掃活動は福祉ママの皆さんが、利用者の方やご家族のご要望やご意見の聴取は第三者委員（オンブズマン）の皆さんが、行事や慰問で踊りや歌の披露は地域の各クラブの皆さんが、それぞれ行ってくださっています。また、老人クラブの皆様からも寄付・寄贈をしていただき、施設のよりよい環境づくりに利用させていただいています。

さらに近年では、地域で行われる行事の案内をいただき、参加させていただくことも増えてきました。

施設に入所している利用者の方にとって、楽しみや近隣の方と話す機会が減ってしまう中、さまざまな形で貴重な時間を提供していただけること、また、職員にとってもご協力いただけることは、とても嬉しいことだと感じています。

これからも地域の方々との繋がりを大切に、皆様にご協力していただける施設であるように努めていき、また、地域の方々のために貢献できることを増やしていきたいな、と考えています。

ワークサポートセンター 三愛

「就労継続支援B型事業 さんあいの取り組み」

多機能型事業所ワークサポートセンター三愛
就労継続支援B型事業さんあい 課長 松原 美和



就労継続支援B型事業さんあいが立ち上がり、今年で4年目です。多機能型事業所ワークサポートセンター三愛としてスタートしてからは平成28年4月で2年が経とうとしています。就労継続支援B型事業は障害を持ち、一般企業に雇用されることが困難な方を対象に生産活動等を通し訓練を行う事業です。今回はさんあいの作業内容をご紹介します。

施設内で行う作業と施設外で行う作業があり、施設内では畳紙づくり、箱折り、ボンド付け、子供服の糸切り、タグつけ、シール貼りなどで4企業から仕事を頂いています。いわゆる内職作業ですがかなりの数量をこなさなければならず、集中力や正確性が必要となります。施設外は三船病院給食場の食器洗浄作業、社会就労センター仲介による農作業を行っています。施設外は大野原や琴平で他のB型事業所と一緒ににんにく、ブロッコリー、レタスの定植、草抜き等の作業をメンバー、スタッフで行っていますがかなり体力を使います。これら作業で得られた収入は必要経費を除いた額がメンバーの工賃となります。

その他、イベント内での屋台販売、野菜作り・販売、桃農家からの依頼による収穫等の作業補助、近隣農家からの依頼による作業も行っています。

さんあいではできる作業を分担したり、上達に合わせて作業の幅が広がっていくように訓練しています。さんあいは障害者総合支援法上、障害を持つ、一般企業に雇用されることが困難な方が利用対象となる事業ですが障害者就業・生活支援センターくばらからのアセスメント利用の受け入れ、くばらや就労移行支援事業みなみと協力し一般就労を目指すメンバーの支援機能も持ち合わせているところが特徴です。



三愛会 トピックス

クリスマス会がありました♪

12月25日(金)に毎年恒例のクリスマス会がありました。ゲストの『おやじバンド』『ALL G's』の皆さまの演奏や、作業療法士によるハンドベルで会場全体が盛り上がりました。バザーでは定番の大判焼きから、この時期だけのクリスマスケーキやチキンなど、様々な種類があり皆さま思い思いに楽しめました。

季節を感じることでできるイベントとして楽しみにされてる方も多いクリスマス会です。来年度の開催も楽しみです。



第31回家族教室開催！！



今回は『三船病院看護部の取り組みについて』というテーマで、当院看護部の三浦幸子副部長に講演をお願いしました。お話しの内容は、看護部の取り組みやご本人との関わり方、訪問看護について等でした。

日々の体のケアだけでなく、看護部が大切に考えている心の姿勢(ケアリング)のあり方、話を聞くこと、相手の立場に立って考える事、共感的に理解することの話です。たくさんのご家族に出席していただき、「看護師の方の愛情や誠意を大切にしてくださっていることが分かった」というご感想もありました。

お忙しいところお越し下さったご家族の皆さま、そして三浦副部長、ありがとうございました。

次回の家族教室は3月での開催を企画中です。ぜひご参加ください。



三愛会 トピックス

第36回相談室セミナー

10月29日(木)に相談室セミナーを開催しました。今回は中讃保健福祉事務所よりキャラバン隊をお招きして茶話会をひらき、退院後の生活の様子や大切にしていることについて、地域で暮らす当事者の方2名からお話を伺いました。

キャラバン隊の方々は毎年三船病院に来て、お話をしてくださっています。退院後の生活についてや、家族との付き合い方、生活の楽しみや日々の苦勞など、キャラバン隊の方々の生の声は、入院中の皆さまの心にスッと入っていくようです。参加された皆様が自分のことをキャラバン隊の方々に相談してアドバイスを受ける場面も見られ、自身の退院を考える一助となったことと思います。実際に昨年キャラバン隊の話聞いた入院中の方の多くが退院されました。

もえぎの会の方とのゲームも参加者全員で楽しみもリフレッシュ!!お互いに元気をもらえる茶話会となりました。



行事案内

○三船病院家族会

今年も5月に開催します。

たこ焼きや大判焼き、デイケアで作成したガラス細工の雑貨など、様々なバザーや三船会館で行う恒例の演芸会も予定しています。豪華なゲスト出演や、患者様と職員有志の演劇もごさいますのでご期待ください。

演芸会終了後には、家族教室も企画していますので、みなさま是非ご参加ください。



三船病院医師からのメッセージコーナー

「甘酒の話」

三船病院 医師 竹本 貴昭

「甘酒」という飲み物があります。僕はスーパーなどに売っているような缶の甘酒は甘すぎて好きではないんですが、たまに酒屋で売っている甘酒を飲む機会があり、それは非常に好きです。最近、「酒屋の甘酒」を飲む機会があったので今回は甘酒についてです。

最近甘酒について「飲む点滴」なんて呼ばれてネットなんかでも取り上げられていることもあります。そう呼ばれる理由は次の通りです。

『甘酒には、ビタミンB1、ビタミンB2、ビタミンB6、葉酸、食物繊維、オリゴ糖や、システイン、アルギニン、グルタミンなどのアミノ酸、そして大量のブドウ糖が含まれているが、これらの栄養はいわゆる栄養剤としての点滴とほぼ同じ内容であることから、「飲む点滴」と称されることもある。ただし点滴は栄養豊富という知識は誤りであり、一般的な点滴は決して栄養豊富というわけではない点に注意。あくまでも栄養成分が似ているというだけである。』(Wikipediaより)

同じくWikipediaからの情報では、甘酒は冬に温ためて飲むものというイメージが強いですが、もともとは夏に飲まれていたようで、夏バテを防ぐ栄養ドリンクとして江戸時代では夏の風物詩だったようです。では医学的には実際効果はあるのでしょうか？ 栄養学も詳しくないですし、正直よく分かりません。すみません。でもこれだけの種類のビタミンやアミノ酸、ブドウ糖が入っているなら一時的な栄養補給としては飲む意味があるのではないかと思います。ただ、純粋においしいから飲む。結果的に体に良いことに繋がる。多くの「体に良い食品」と同じ様にこのくらいに思っていた方が良くと思います。

最後に注意ですが、市販されている甘酒はアルコール分が1%未満であるものが普通なので清涼飲料水として扱われ、未成年者でも飲めます（酒屋で買う場合は一応確認して下さい）。しかし、お酒に弱い人がたくさん飲むと酔う可能性があります。万が一「呼気中のアルコール濃度が0.15mg/L以上」となってしまったら「酒気帯び運転」になりますのでくれぐれも注意して下さい。

医療法人社団三愛会

三船病院

〒763-0073

香川県丸亀市柞原町 366

TEL : 0877-23-2341

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	×	○	×

【受付時間】

午前：8:30～11:30

午後：16:00まで

【診療時間】

午前：9:00～12:00

午後：13:30～17:00



《編集後記》

寒い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。インフルエンザやノロウイルスの流行はまだまだ続いています。感染症予防に力を入れ元気に生活していきたいものですね。

三船病院では、お越し頂いた皆さまが気持ちよく受診・相談していただけるよう“接遇”という言葉を意識して日頃の業務にあたっています。業務に追われて大切なことを見失わないよう、“接遇”“信頼”と立ち返って考える時間を持つよう努めたいと思います。

(三船病院相談室PSW)